
2021年9月12日(日) 国崎 ウタセ真鯛 功成丸 ツレと
中潮:旧8/6 満潮 09:28(193cm) 干潮 15:08(97cm) 満潮 20:57(194cm) 鳥羽
自分 マダイ・チダイ 19尾
ツレ マダイ・チダイ 27尾 カンパチ 58cm 1尾 ワラサ 60cm 1尾
(マダイ 38cm他 5尾、チダイ 34cm他 41尾)

11時30分 集合
12時00分 出船
15時08分 干潮 97cm : 鳥羽
18時30分 沖上がり
帰宅後 魚の処理 5時間30分



【料金】 乗り合い 12,000円 氷付き
釣り座は抽選

【仕掛け】

自作仕掛け

ハリス5号100cm 幹糸5号 枝間120cm 伊勢尼12号3本鈎 捨て糸3号50cm

※昨年に続き、ハリスを1mにした。これで良かった。十分である。

※仕掛けとおもり30号・40号は、一人2セットずつ持参すること。

竿 ウタセ真鯛用竿(自分) マダイ用竿(ツレ) 電動リール 竿受け 錘 10号～50号
エビ用網 ‘かんこ’から魚をすくうためのタモ 魚を締めるためにゴム手袋 アイスピック ナイフ
電動リール 自分:シーボーク300J ツレ:BeastMaster3000XP シーボーク用バッテリー

【様子】

- 釣り座の抽選は1番くじ。右舷大艫(後から1番目、2番目)に並んで釣ることにした。
- 天気は雨、風はほとんどない。波もほとんどない。
- 酔い止めは10時30分に飲んだ。当然、酔わなかった。
- 仕掛けの流れる向きは、後方だが船の下に入る向きだった。潮止まり後は、舟の下に入る向きだった。
- 「水深47m。錘は30号。」とアナウンスがあった。
- 昨年、自動巻き上げで釣果を上げたので、今年も次のような釣り方で釣ることにした。
- 「おもりが着底したら、直ちに電動で巻き上げる。巻きスピードは餌取りに餌を取られない速さである。底から10m上まできたら、仕掛けを少し止めて再び底まで落とす。2～3回繰り返して釣れなければ、餌チェックをする。」
- 鯛ラバでは「一定の巻きスピードで底から10m位まで巻き上げる」という釣り方であることから、ウタセ釣りでも同じことが言えるだろう。底から10mまでで釣るとのことだ。
- 巻きスピードは餌取りに餌を取られないスピードでタイが喰ってくるスピードである。餌取りが取る状況なら、スピードを少し上げると餌取りは餌をとることができないが、タイは餌を喰ってくる。
- 自分(シーボーク)は、おもり30号でスピード5がちょうど良かった。(前回も、スピード5だった。)
- ツレ(BeastMaster)は、おもり30号でスピード4であった。
- 釣り始めてすぐにヒット。続けて、底まで落として巻き上げたらヒット。しかし、根掛かり。タイがかかって

いるのに根掛かりしている。結局、仕掛けを切ることにした。ところがリーダーから切れてしまった。ハリス80cmの仕掛けしか手持ちになかったのをこれをセットした。

- ハリスの長さが釣果に影響するとは感じなかった。しかし、タイが何度もかかると鉤の近くがタイの歯で傷つくため、鉤を結び直し、ハリスが短くなっていく。そのため、ハリスは1mがちょうどいいであろう。
- 上潮は流れているが底潮は流れていないという状況だった。「上潮で仕掛けを流したり、仕掛けを流そうと糸ふけを出すと隣に人と絡む。」というアナウンスがあった。
- 仕掛けをまっすぐ落とすために、底から10m上で仕掛けを止め、糸がまっすぐになったら、再び落とすということをした。ツレは仕掛けを落とすとき2~3度止めたと言っていた。
- ツレは入れ掛かり状態である。ダブル、トリプルもある。この釣り方は今日の状況にあっているのだろう。
- 自分もダブルを狙い、大きな当たりで合わせた後、2~3mはゆっくり巻いてきたが、思ような釣果につながらなかった。
- ツレは、ダブル、トリプルを狙ったのではない。たまたま、そうになっていたと言う。
- 潮止まりに近づいたとき、底から8m位でコツコツと当たりがあり、10mで竿先が入った。底から追いかけてきたのだろうか。底から10mまで巻き上げることの有効性が確認できた。
- ツレの竿先が水中に入った。良型である。ワラサが上がってきた。
- 15時になって移動となった。潮止まりの時間である。
- 合図があり後半のスタート。しかし、前半の釣り方では掛かってこない。まだ、潮が動いていないせいだろうか。
- 「潮止まりでは餌を動かして釣った方が良い。」「活性が低いなら、巻きスピードを落としてはどうだろうか。」と考え、巻きスピードを「1~2」で試した。これが良かった。ヒットした。
- ツレも同様に巻きスピードを「2」に落として釣っていた。
- 振り返ってみれば、終日、餌取りはあまりいかなかったように思う。
- 上潮だけがきいてきた。おもりを40号に替えた。
- ツレが仕掛けを取られた。PEラインが切られていた。フグの仕業であろう。手持ちの仕掛けがなかったので、船上で購入した(¥500)。ハリスは1.5mだった。おもり40号も手持ちがなかったので、30号を掛けた。
- 夕まずめに近づいてきた。終了時刻にも近づいてきた。「カンパチを狙いにいきます」とアナウンスがあった。
- 前回「カンパチは底から5m上」と聞いていた。「夕まずめは底で待つ」が基本である。カンパチを狙いたいことから、スピード1でこれまで通りの釣りをすることにした。スピード1は極めて巻き上げが遅いからである。
- 当たりがあった。底から2~3m上だったのだろうか。カンパチらしき強い引きである。しかし、裏の人の仕掛けと絡んだようでバレてしまった。タイが一枚ついていた。
- 理由は忘れたが、一番下の鉤がなくなっていた。鉤を結び直す時間が惜しいと考え、上2本の鉤で続けた。
- この間、ツレがカンパチを上げた。
- 底でコツコツという当たりがあった。竿先が入るのを待ちきれず、大きく合わせた。カンパチらしき強い引きである。しばらくして、ふっと軽くなった。鉤のところでハリスが切れていた。タイが一枚ついていた。
- 鉤が1本となった。終了時刻まで少しある。一本だけ鉤を追加した。この後、掛かるということはなかった。

【釣り方1】 餌取りをかわして本命をねらう

- おもりが着底したら、直ちに電動で巻き上げる。巻きスピードは餌取りに餌を取られない速さである。底から10m上まできたら、仕掛けを少し止めてから再び底まで落とす。2～3回繰り返して釣れなければ、餌チェックをする。
- 餌取りにやられないスピードで、底から巻き上げてくる。
できるだけ遅いスピードで、かつ、餌取りにやられないスピードで巻き上げてくる。
- 巻きスピードは時間帯によって変わるので、餌チェックで確認する。

	前半		後半	
シーボーク300J	おもり30号	スピード5	おもり40号	スピード 1～2
BeastMaster3000XP	おもり30号	スピード4	おもり40号	スピード 2

- 当たりが渋いときは、巻き上げ中に時々誘いを入れる。誘いをいれた方がよいときもある。
- 仕掛けが着底したら、すぐに巻き上げに入る。スピードは考えなくてよい。糸が張ってから調整すれば良い。

【釣り方2】 餌取りにやられることを覚悟のもと、底で釣る。

- 「おもりが底をたたくようでは釣れない。おもりを浮かしておくか、底につけておく。」と聞いたことがある。これまでおもりを底につけて、糸を吹かせておいた方が釣れたという実績がある。
- 糸を吹かせる量で釣果が変わることがある。

※釣れないと感じたら、いろいろ試す。活性が高いときにはダブル・トリプルを狙いたい。

※釣り日記を読んでから釣行したい。

